Yamagata University

Graduate School of Creative Studies in Society and Culture

山形大学大学院
社会文化創造研究科

新しい価値を創造する

社会文化創造研究科という名称は２つの理念を表現しています。

一つは〈社会文化〉。本研究科の教育研究対象となる基本概念で、
学生は社会と文化の領域から自分の課題を設定して、その課題解決の方法を追究し、
新たな価値を創造することをめざします。

もう一つは〈創造〉。現代日本において、地域活性化や文化の維持などが
大きな課題となっています。
これらを解決するために、社会的価値、文化的価値及び心理的価値などの
新たな価値を内包する解決策について創造的・実践的に
追究・構想しなければなりません。

〈創造〉は、課題解決の方向性を示す理念で、かつ本研究科の
教育研究目的を表します。

社会文化システム研究科と地域教育文化研究科は統合し、
新研究科「社会文化創造研究科」へ

社会文化システム研究科

専攻	入学定員	学位
文化システム専攻	6 人	修士（文学）
社会システム専攻	6 人	修士（政策科学）

地域教育文化研究科

専攻	入学定員	学位
臨床心理学専攻	6 人	修士(臨床心理学)
文化創造専攻	8 人	修士（学術）

▶

社会文化創造研究科

専攻	入学定員	募集人員	コース	学位
社会文化創造専攻	24 人	10人程度	社会文化システム	修士（文学） 修士（政策科学）
		7人程度	臨床心理学	修士(臨床心理学)
		7人程度※	芸術・スポーツ科学	修士（学術）

※芸術・スポーツ科学コースの募集人員については，山形大学地域教育文化学部「チャレンジプログラム」における進学予定者数により募集人員が変更となる場合があります。

従来の大学院からの主な変更点

✓ 専門知識の深化に加え、**広く社会で活躍**できるよう俯瞰的視野・複眼的視野育成を目指した**体系的なカリキュラムを提供**します。
✓ 他分野の教員も含めた 3 名の指導教員からなる**充実した研究指導**を行います。
✓ 多様な社会文化的な背景を持つ**学生が交流する取り組みを推進**します。

本研究科の特色

すべての学生が分野横断的な教育研究に取り組み、異分野間の教員や学生の学術的交流を深めます。

1. 豊かな人間力の涵養

全学的な大学院共通科目として、基盤教育科目及び基礎専門科目を設置します。大学院共通科目を通じて新しい社会で求められる大学院教育を実施し、多様で複雑な課題解決に対応できる人材を育成します。

2. 学際性の強化

研究科における共通科目を開設するとともに、分野連携の複数教員による研究指導を実施して学際性を強化します。共通科目「社会文化創造論」を通じ、社会と文化の関連について人文科学、社会科学、臨床心理学、芸術学及びスポーツ科学の分野から俯瞰的に捉える視点を学び、多面的に文化的・社会的課題を解決する力を身に付けます。また、分野連携による複数の指導教員で研究指導を行うことに加え、異なる分野の学生が参加する合同研究成果発表会を開催します。これらの取り組みにより、学生は多様な分野の学術的視点を身に付けながら自らが専攻する分野の意義や課題を総合的に考えることが可能になります。

3. 知の深化と総合化を重視した教育

各コースや教育プログラムは社会文化システム研究科及び地域教育文化研究科が築き上げてきた研究や教育の強みに基づいており、大学院専門教育の核となります。学生は核となる専門分野に軸足を置いて、専門知識や技術を深めることが可能です。他方、今日では文化と社会との関連性は高まるとともに複雑化しています。他分野の専門科目も履修可能とし、細分化された知を総合的な観点から俯瞰させる学際的な教育を実施します。

新研究科・新専攻の概要

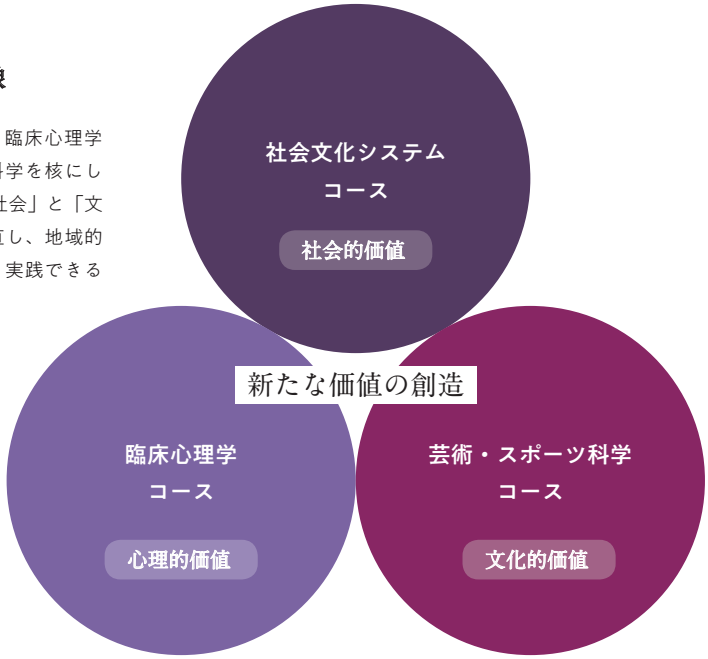
グローバル化が進む現代社会において、日本の地方では人口減少が進行し、地域の活性化や文化の維持などが大きな課題となっています。社会文化創造研究科は、これらの課題を解決するために、新たな価値（社会的価値、文化的価値（芸術・スポーツ科学を含む）、心理的価値など）を内包する解決策について創造的・実践的に追及することを「社会文化創造」と捉え、その実現を目指します。
本研究科は社会文化創造専攻の１専攻から構成されており、この専攻の下に、社会文化システム、臨床心理学、芸術・スポーツ科学の３コースが設置されています。さらに社会文化システムコースと芸術・スポーツ科学コースにはそれぞれ３つの教育プログラムを設け、これまで培ってきた教育研究の強みに基づいた体系的教育をさらに充実させています。

Graduate School of Creative Studies in Society and Culture

社会文化創造研究科

養成する人材像

人文科学、社会科学、臨床心理学及び芸術・スポーツ科学を核にしながら、人間社会を「社会」と「文化」の関係から捉え直し、地域的な展開を新たに創造・実践できる人材を育成します。



多様な研究分野の教員の交流推進

言語・文化学、日本学、人間科学・思想文化学、歴史文化学、グローバル文化学、考古人類学、公共システム、企業システム、国際システム、臨床心理学、スポーツ科学、音楽芸術、造形芸術

多様な社会文化的な背景を持つ学生の交流推進

留学生、社会人、山形大学出身学生、全国の他大学出身学生

社会文化創造研究科

●学士課程

人文社会科学部					地域教育文化学部	
人間文化コース	グローバル・スタディーズコース	地域公共政策コース	総合法律コース	経済・マネジメントコース	文化創生コース	児童教育コース

●大学院修士課程

社会文化創造専攻

社会文化システムコース	臨床心理学コース	芸術・スポーツ科学コース
言語・文化学、日本学、人間科学・思想文化学、歴史文化学、グローバル文化学、考古人類学、公共システム、企業システム、国際システムなど、人文・社会科学の専門知を備えて社会・文化の発展に貢献できる高度専門職業人を養成します。	保健医療、教育、福祉、司法・犯罪、産業・労働等の領域において、臨床心理学をはじめとする心理学の知識や諸技法を活かしてこころのケアに貢献できる高度な専門家を養成します。（臨床心理士、公認心理師に対応したカリキュラム）	音楽芸術、造形芸術、スポーツ科学の領域において、文化の活性化に寄与する高度な専門的職業人を養成します。

●想定される就職先

公務員（国や地方の行政職）、NPO 団体、教員、学習支援業、学芸員、文化財専門職員、文化財関連の民間企業、地域を基盤に広域展開を図る地場産業、金融機関、博士後期課程進学など	公務員（心理職）、病院心理職、児童福祉施設心理職、スクールカウンセラーなど	公務員（文化振興系，スポーツ振興系）、教育サービス業、芸術教材開発企業、学芸員、音楽指導者、演奏家、作・編曲家、作家（画家、版画家、デザイナー、工芸家）、教員、健康・スポーツ関連企業、スポーツ団体職員など

カリキュラム・ポリシー

社会文化創造研究科では、 山形大学大学院の教育課程編成・実施方針 (カリキュラム・ポリシー) に沿って、 学生が体系的かつ主体的に学修できるように教育課程を編成し、 これに従って教育を行います。

教育課程の編成・実施等

• 現代社会で求められる高度専門的職業人を育成するため、基盤教育科目、基礎専門科目及び高度専門科目から構成される、体系的なカリキュラムを編成します。
• 高度な専門的知識や技能を涵養するため、各分野の高度専門科目に分野共通科目、コース別専門科目及び特別研究を配置します。

教育方法

• 講義、演習及び実習科目を適切に配置し、授業においては学生が主体的かつ対話的な学びを実現できるよう工夫します。
• 学位論文あるいは修了課題研究等の指導については、指導体制を整備し、複数の指導教員により、研究計画を策定した上で指導します。

教育評価

• 講義科目では、到達度を確認できる明確な成績評価基準に基づく評価を行います。
• 修士課程の学位基準に基づき、学位論文あるいは修了課題研究を評価します。

基盤教育科目の内容とその特色・基盤教育科目と基礎専門科目

本研究科の基礎教育においては、山形大学の全ての研究科・大学院において必修の共通科目、すなわち基盤教育科目と基礎専門科目を履修します。基盤教育科目は、山形大学の社会的使命に相当するテーマを学ぶ授業科目です。この科目では「地域における変化やグローバル化の進行に対応すべく、不断に生じる課題を正確に把握し、将来に向けて解決するために必要な豊かな人間力」を涵養します。また、俯瞰的視野の素養を身に付けさせる学生主体型授業を通じて地域社会の問題解決力、新たな価値創造力、柔軟な異文化理解力を養成します。これらの過程を通じ、学生が身に付けた専門知識を社会に還元する際に求められる高度な汎用的能力を高めることを目的としています。
基礎専門科目では、基盤教育科目と共に専門分野の範囲を超えた学際的な領域の知識もしくは、専門分野以外の専門知識を学修させることで「知の総合的な推進力」を育成します。そして、各研究科が提供する科目群の中から履修する文理横断型の教育により、知の基盤となる基礎的専門性や異分野の専門性を修得させるという文理融合を生かした特色があります。これらの過程を通じ、複眼的視野をもち多面的な知識を融合して活用できる知識運用力を高めることを目的としています。

高度専門科目（研究科共通科目）の内容とその特色

本研究科の高度専門科目のうち、研究科共通科目として「社会文化創造論Ⅰ」と「社会文化創造論Ⅱ」の履修を義務付けます。これらの科目は、関係する専門分野だけではなく、広く多元的な視野と社会における様々な問題や課題に前向きに取り組み解決する能力を育成するために、各分野を連携し、異分野の複数教員が担当して実施します。
「社会文化創造論Ⅰ」では、「文化」を「社会」との関連の中で俯瞰的に捉える観点を学び、現代社会が直面する課題についての分析スキルを身に付け、課題が生じる原因を的確に理解し社会の変革に対応する力を修得します。
「社会文化創造論Ⅱ」では、既存の学問領域の垣根を低くし、人間社会を「社会」と「文化」の関係から捉え直し、地域社会が抱える課題の多様性を理解したうえで、課題解決に向けて行動することができる実践力を身に付けます。コース横断型の班を構成することによって、学生は異なる分野の視点や考え方を知ることができ、学際性が強化されます。テーマに沿った授業ののち、最終回では、地域の新たな価値や可能性を見出せたかについて全体討議を行います。

高度専門科目（専門科目）の内容とその特色

本研究科の高度専門科目のうち、専門科目においては、学士課程の教育を受けて体系的に履修し、「知の深化と総合化」を重視します。ここでは、専門知識や技術をさらに深めるとともに、他分野の専門科目をも履修可能とし、細分化された知を総合的な観点から俯瞰させる教育を実施できる特色があります。分野連携の複数の指導教員による特別研究、学生が所属するコースや教育プログラム、及び研究科から一定の単位を修得することにより、専門の軸足性と学際性のバランスがとれた履修が可能になります。具体的な履修科目は、学生の研究テーマに合わせて指導教員と協議しながら決定します。
なお、社会文化システムコースと芸術・スポーツ科学コースには、これまで培ってきた教育研究の強みに基づいた体系的教育をさらに充実させ、それぞれ３つの教育プログラムを設けています。教育プログラムに属する分野の科目を体系的に履修することにより、研究の専門性が深化され、研究の軸足性が築かれます。軸足性を強固な礎とし、高度な実践力を身につけるため、２年次に、「臨床心理実習 A、B」を臨床心理学コースの必修科目、「文化コーディネート実習」を芸術・スポーツ科学コースの選択必修科目とします。

社会文化システムコース

養成する人材／社会科学及び人文科学に分類される学問領域の垣根を低くし、相互の融合を図りながら、人間の活動を「社会」と「文化」の関係から広く捉える視座に立ち、世界的視野から国家や地域の理解・創造・発展に寄与できる地域創生人材の育成

■ DP1 ／豊かな人間力

①社会の国際化に対応すべく、専門領域において他者と積極的に意見を交換することができる多彩なコミュニケーション能力を身に付けている。

②自らの研究成果を社会一般に発信する能力を獲得し、現代の知識基盤社会を多様に支える専門的職業人として高い意識を有している。

■ DP2 ／深化した専門的知識・技能と文理兼修による幅広い視野

①社会科学及び人文科学に関する高度で専門的な研究を遂行することができる深い知識と考え方を修得し、それらを現代社会が抱える多様な諸課題の解決のために活用・応用していく能力を有している。

②自らの主張を広く展開するためには、関連領域との連携や巨視・微視的視点を使い分ける複眼的な考察が必要であることを十分に理解している。

■ DP3 ／多様な文化の理解とその共生に向けて行動できる能力

①人間生活の多様性を時空間に囚われることなく把握したうえで、社会科学及び人文科学の専門的視点から今日的課題を抽出することができる能力を身に付けている。

②人間の活動によって育まれた文化の多様性を十分に理解し、それらの維持、醸成のために自ら行動しようとする意識を有している。

基盤力 ⟵ ⟶ 専門力

基盤教育科目（2 単位）	
地域創生・次世代形式・多文化共生論(2単位)	
DP1 ①	DP1 ②

基礎専門科目（2 単位以上）	
異分野実践研修（1 単位）	
データサイエンス（1 単位）	
ほか	
DP2 ②	

高度専門科目		
研究科共通科目（2 単位）	専門科目（16 単位以上）	特別研究（8 単位以上）
社会文化創造論 I（1 単位）	特論	特別研究（8 単位）
社会文化創造論 II（1 単位）	DP2 ①	DP1 ① / DP1 ②
DP1 ① / DP1 ②	特別演習	DP2 ① / DP2 ②
DP2 ② / DP3 ②	DP2 ① / DP3 ①	DP3 ① / DP3 ②
	分野別特別演習	
	DP2 ② / DP3 ①	
	他分野科目	
	DP2 ②	

修士論文　または　特定課題の研究成果

文化システムプログラム

人間科学、思想歴史論、国際文化論の教育を基礎に、様々な文化現象を一つの総合的なシステムのうちに位置づけ、システマチックな連関を理解し、多様化・複雑化する現代社会の要請に答えうる人材を育成する教育プログラムです。

アジア文化を研究テーマとした場合 ▶

考古人類学プログラム

ナスカ地上絵の世界的研究拠点として、政府などの公的機関において国際協力を推進できる人材、国内外の文化財保護事業を推進しその発展に貢献できる人材、考古人類学及びアンデス文明の先進的研究を牽引する研究者を育成する教育プログラムです。

考古人類学を研究テーマとした場合 ▶

社会システムプログラム

社会科学の諸分野や関連する分野の教育を通じて、様々な社会現象を体系的なシステムとして捉えるとともに学際的な関連性も理解し、地方創生や地域における社会づくりに貢献できる人材を育成する教育プログラムです。

企業経営を研究テーマとした場合 ▶

履修モデル

	1年次 前期	1年次 後期	2年次 前期	2年次 後期
修士論文	主指導教員 副指導教員決定	研究計画書に基づく指導		学位論文審査
高度専門科目 • 特別研究	グローバル文化学特別研究I	グローバル文化学特別研究I	グローバル文化学特別研究II	グローバル文化学特別研究II
• 専門科目	東アジア近現代文化論特論 日本語学特論 現代中国政治特論 スポーツ教育学特論	東アジア近現代文化論特別演習 日本語学特別演習 現代中国政治特別演習	グローバル文化学特別演習	
• 研究科共通科目	社会文化創造論I	社会文化創造論II		
基礎専門科目	研究者としての基礎スキル キャリア・マネジメント			
高度専門科目 • 特別研究	考古人類学特別研究I	考古人類学特別研究I	考古人類学特別研究II	考古人類学特別研究II
• 専門科目	人類学・考古学特論A 人類学・考古学特論B 人間情報科学特論 心理学特別演習(統計)	人類学・考古学特別演習A 人類学・考古学特別演習B 心理科学特別演習A	考古人類学特別演習	
• 研究科共通科目	社会文化創造論I	社会文化創造論II		
基礎専門科目	異分野実践研修		異分野連携論	
高度専門科目 • 特別研究	企業システム特別研究I	企業システム特別研究I	企業システム特別研究II	企業システム特別研究II
• 専門科目	中小企業論特論 企業経営論特論 国際経済論特論 生涯スポーツ特論	中小企業論特別演習 企業経営論特別演習	企業システム特別演習 商法特論	
• 研究科共通科目	社会文化創造論I	社会文化創造論II		
基礎専門科目	研究者としての基礎スキル キャリア・マネジメント			
基盤教育科目	地域創生・次世代形成・多文化共生論			

プログラム科目　コース科目　他コース科目　必修科目　選択必修科目

臨床心理学コース

養成する人材／従来の学問領域の垣根を低くし、人間の活動を「社会」と「文化」の関係から多面的に考究し、臨床心理士等として人々の心の健康の保持増進を支援し、豊かな共生社会の創造に貢献できる人材の育成

■ DPI ／豊かな人間力

①人々の心の健康の保持増進に貢献すべく、人間の行動や社会の多様性を尊重し、適切な人間関係を築くことのできるコミュニケーション能力を身に付けている。

②社会の変化を的確に捉え、人々の心の健康を支える専門的職業人（臨床心理士、公認心理師等）として必要な資質・能力を身につけ、不断に探求する態度を有している。

■ DP2 ／深化した専門的知識・技能と文理兼修による幅広い視野

①臨床心理学に関する高度で専門的な研究を遂行することができる深い知識と高度な技能を修得し、現代社会の諸課題の解決や新しい価値の創造に活用する能力を有している。

②高度専門的職業人として、研究・実践における異分野連携の重要性を認識し、複眼的で俯瞰的な視野を有している。

■ DP3 ／多様な文化の理解とその共生に向けて行動できる能力

①現代社会の急速な変化と多様性を的確に捉え、専門的視座に立ち、人々の心の健康の保持増進や豊かな共生社会実現のために行動することができる。

②世界的な視野からの多文化理解を基盤に、人間活動の文化的背景を深く理解し、文化の尊重・創造に貢献する強い意志を有している。

基盤力 ⟵ ⟶ 専門力

基盤教育科目（2 単位）	
地域創生・次世代形式・多文化共生論(2単位)	
DP1 ①	DP1 ②

基礎専門科目（2 単位以上）	
先端医科学特論（1 単位）	
データサイエンス（1 単位）	
ほか	
DP2 ②	

高度専門科目		
研究科共通科目（2 単位）	専門科目（29 単位以上）	課題研究（4 単位）
社会文化創造論 I（1 単位）	実習	課題研究
社会文化創造論 II（1 単位）	DP1 ① DP1 ②	DP1 ① DP1 ②
DP1 ① DP1 ②	DP3 ① DP3 ②	DP2 ① DP2 ②
DP2 ②	特論	DP3 ① DP3 ②
DP3 ②	DP2 ①	
	演習	
	DP2 ① DP3 ①	
	他分野科目	
	DP2 ②	

修士論文

臨床心理学コース

保健医療、教育、福祉、司法・犯罪、産業・労働等の多様な領域において、臨床心理学をはじめとする心理学の知識や諸技法を活用し、健康で豊かな社会の創造に貢献できる高度専門職業人を養成するコースです。

履修モデル

	1 年次 前期	1 年次 後期	2 年次 前期	2 年次 後期
修士論文	主指導教員 副指導教員決定	研究計画書に基づく指導		学位論文審査
高度専門科目 • 課題研究	課題研究I		課題研究II	
• 臨床心理学に関する必修科目	臨床心理学特論A 臨床心理面接特論A 臨床心理査定演習A 臨床心理基礎実習	臨床心理学特論B 臨床心理面接特論B 臨床心理査定演習B	臨床心理実習A 臨床心理実習B	
• 専門科目	(A群)心理学特別演習(統計) (D群)精神医学特論 (E群)心理療法特論	(B群)発達心理学特論 (C群)家族心理学特論		
• 研究科共通科目	社会文化創造論I	社会文化創造論II		
基礎専門科目	研究者としての基礎スキル データサイエンス			
基盤教育科目	地域創生・次世代形成・多文化共生論			

コース科目　必修科目　選択必修科目

公認心理師の実習科目

心理臨床の専門職として活躍するためには、理論や技法に関する講義のみならず、心理療法、カウンセリング、心理アスメント等に関するさまざまな実習を通じて心理支援や心理検査の実際に触れることが不可欠です。

スーパーバイザーの丁寧な指導のもと、心理支援の基礎的な知識及び技能を獲得するとともに、支援計画の策定、チームアプローチの実践、多職種連携及び地域連携の重要性、公認心理師としての職業倫理及び法的義務を身に付けます。

●心理実践実習基礎

学内実習施設である心理教育相談室での実習（ケース実習、カンファレンス出席）と学外施設の見学実習、及び地域心理支援としてのセミナーの企画・運営活動といった内容から構成されます。

●臨床心理実習A（心理実践実習A）

臨床心理士の実習科目も兼ねており、大きく学内実習施設における担当ケース実習と大学病院の精神科や私立精神科単科病院といった保健医療領域の学外実習施設における実習からなります。

●心理実践実習B

学内実習施設における担当ケース実習等を通じて、心理支援の実際を経験し、指導を受けながら基礎的知識と技能を身につけるとともに、支援計画の作成や多職種・地域との連携、職業倫理や法的義務の重要性を体験的に学びます。

芸術・スポーツ科学コース

養成する人材／従来の学問領域の垣根を低くし、人間の活動を「社会」と「文化」の関係から多面的に考究し、スポーツや芸術を通して、健康で豊かな社会の創造や、地域及び世界における文化の発展に貢献できる人材の育成

■ DPI／豊かな人間力

①新たな文化や価値を創造するために、多様な人々との関わりを通じて豊かなコミュニケーション能力を身に付けている。

②人々の健康や文化的活動を支え、新たな価値の創造に貢献する高度専門職業人として、人間の多様性を理解して協働し、不断に探求する態度を有している。

■ DP2／深化した専門的知識・技能と文理兼修による幅広い視野

①芸術・スポーツ科学に関する高度で専門的な研究を遂行することができる深い知識と高度な技能を有し、現代社会の課題解決のために活用する能力を有している。

②専門的知識や技能の深化に加え、研究・実践における異分野連携の重要性を認識し、複眼的で俯瞰的な視野を有している。

■ DP3／多様な文化の理解とその共生に向けて行動できる能力

①現代社会の急速な変化と多様性を的確に捉え、人々の文化的活動の充実や健康の保持増進に貢献し、豊かな共生社会実現のために行動することができる。

②世界的視野からの多文化理解を基盤に、芸術やスポーツの新たな価値を探求・発信し、文化の尊重・創造に貢献する強い意志を有している。

基盤力 ⟵ ⟶ 専門力

基盤教育科目（2 単位）	
地域創生・次世代形式・多文化共生論(2単位)	
DP1 ①	DP1 ②

基礎専門科目（2 単位以上）	
異分野連携論（1 単位）	
データサイエンス（1 単位）	
ほか	
DP2 ②	

高度専門科目		
研究科共通科目（2 単位）	専門科目（16 単位以上）	特別研究（8 単位以上）
社会文化創造論Ⅰ（1 単位）	文化コーディネート実習	特別研究（8 単位）
社会文化創造論Ⅱ（1 単位）	DP1 ① DP1 ②	DP1 ① DP1 ②
DP1 ① DP1 ②	DP3 ① DP3 ②	DP2 ① DP2 ②
DP2 ②	特論	DP3 ① DP3 ②
DP3 ②	DP2 ①	
	特別演習	
	DP2 ① DP3 ①	
	他分野科目	
	DP2 ②	

修士論文　または　特定課題の研究成果

音楽芸術プログラム

音楽芸術に関する学術上の高度な専門的な知識を有し、グローバルな視点を背景として、地域社会の音楽芸術文化の振興と発展に貢献できる人材を養成する教育プログラムです。

造形芸術プログラム

造形芸術に関する学術上の高度な専門的な知識を有し、グローバルな視点を背景として、地域社会の造形芸術文化の振興と発展に貢献できる人材を養成する教育プログラムです。

スポーツ科学プログラム

スポーツ科学に関する最先端の知識や技能をもとに、子どもから高齢者、また健康増進から技術成績向上など、様々な対象や志向に対する科学的根拠に基づいた適切な支援を通して、健康で豊かな社会の創造に貢献できる人材を養成する教育プログラムです。

履修モデル

	1年次 前期	1年次 後期	2年次 前期	2年次 後期
修士論文	主指導教員 副指導教員決定	研究計画書に基づく指導		学位論文審査
高度専門科目 • 特別研究	音楽芸術特別研究Ⅰ	音楽芸術特別研究Ⅰ	音楽芸術特別研究Ⅱ	音楽芸術特別研究Ⅱ
• 専門科目	地域音楽活動実践特論 舞台芸術特別演習A パフォーマンス解析特論	地域音楽活動実践特別実習 総合音楽特論 舞台芸術特別演習B アートマネジメント特論	文化コーディネート実習（音楽） ※履修プログラムから「文化コーディネート実習」(2単位)を含む12単位以上を修得すること	
• 研究科共通科目	社会文化創造論Ⅰ	社会文化創造論Ⅱ		
基礎専門科目	研究者としての基礎スキル	異分野連携論		
高度専門科目 • 特別研究	造形芸術特別研究Ⅰ	造形芸術特別研究Ⅰ	造形芸術特別研究Ⅱ	造形芸術特別研究Ⅱ
• 専門科目	絵画表現特別演習 彫刻表現特別演習 美学・芸術史特論	アートマネジメント特論 平面造形特別演習 立体造形特別演習 美学・芸術史特別演習	文化コーディネート実習（造形） ※履修プログラムから「文化コーディネート実習」(2単位)を含む12単位以上を修得すること	
• 研究科共通科目	社会文化創造論Ⅰ	社会文化創造論Ⅱ		
基礎専門科目	研究者としての基礎スキル	異分野連携論		
高度専門科目 • 特別研究	スポーツ科学特別研究Ⅰ	スポーツ科学特別研究Ⅰ	スポーツ科学特別研究Ⅱ	スポーツ科学特別研究Ⅱ
• 専門科目	スポーツ教育学特論 コーチング学特論 トレーニング科学特論 パフォーマンス解析特論	コーチング学特別演習 トレーニング科学特別演習 地域社会文化実習	文化コーディネート実習（スポーツ） ※履修プログラムから「文化コーディネート実習」(2単位)を含む12単位以上を修得すること 人間情報科学特論	
• 研究科共通科目	社会文化創造論Ⅰ	社会文化創造論Ⅱ		
基礎専門科目	研究者としての基礎スキル データサイエンス			
基盤教育科目	地域創生・次世代形成・多文化共生論			

プログラム科目　コース科目　他コース科目　必修科目　選択必修科目

入学者選抜の概要

●入学者受入方針（アドミッションポリシー）

社会文化創造研究科は、人文社会科学及び芸術・スポーツ科学の各分野において、高度な専門的知識や技能を涵養するとともに、各分野において地域社会の健全な発展向上に寄与することができる高度専門職業人を養成します。そして、専門的知識や技能を育成するため、世界的な視野から地域における諸課題に積極的に取り組み、分析し、その課題を解決できる能力を持った人材を育成します。そのため、多様な視点や広い視野を獲得して課題解決に積極的に応えていく意欲のある人を、国内外から広く受け入れます。

●求める学生像

・人文社会科学と芸術・スポーツ科学の各分野における高度な専門的知識と技能を身に付け、実践的な能力を高めたいという意欲と能力を持つ人
・今日の国際社会や地域社会の抱える諸課題に対し、積極的に取り組み解決しようとする意欲と能力を有している人

各コースのアドミッションポリシー、入試区分及び選抜方法は、大学院社会文化創造研究科のウェブサイトをご覧ください

社会人の入学者に対する修学支援

●社会人入試の実施

本研究科では、官公庁、企業又は教育機関等での３年以上の職業経験を有する者などを対象に社会人入試を実施します。各コース毎に、筆記試験（専門科目、小論文）、口述試験・面接、出願書類などを総合して合否判定を行います。

●長期履修制度の導入

学生が職業を有しているなどの事情により、標準修業年限（２年）を超えて一定の期間（最長４年）にわたり計画的に教育課程を履修し、課程を修了することができる長期履修制度を導入します。

●履修や研究の指導、授業の実施方法

履修や研究の指導及び授業の実施は通常の方法で実施します。授業時間については、個々の学生のニーズに合わせて、通常の時間帯（8:50 ～ 17:50）以外に、特例措置の時間帯（18:00 ～ 21:10）を設定します。また、必要に応じて土曜日あるいは夏季・冬季休業期間も履修できます。

●施設等の利用時間

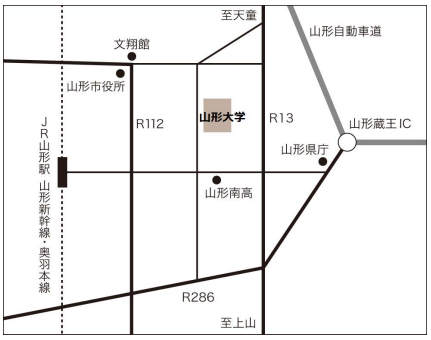
平日・休日を問わず 24 時間利用できる大学院生専用の研究室を用意します。当該研究室にはパソコン端末が設置され、一般の学生と同じく利用することが可能です。また、附属図書館は、平日は 8時45分から21 時まで、土日祝日も所定の時間帯に開館しており、研究資料の収集等のために利用することができます。

学費・授業料免除・奨学金

学びたい学生の意欲をサポートするために、授業料免除や分納制度を用意しています。
また、学業・人物ともに優秀かつ健康で、経済的理由により修学が困難な方に対して、
日本学生支援機構、地方公共団体等からの奨学金制度があります。

詳細はこちら＞

アクセス



山形大学 小白川キャンパス

● JR 山形駅東口から、東方へ約 2.5 km
● **路線バス（山交バス）**
【「県庁前・県庁北口」行き】乗車→「南高前・山大入口」下車（所要時間約６分）、そこから徒歩７分
●市内循環バス「ベニちゃんバス」
【東くるりん／東原町先回りコース】乗車→「山大前」下車（所要時間約９分）、そこから徒歩１分
●JR 仙台駅前から高速バス
［仙台～山形線］乗車→「南高前・山大入口」下車（所要時間約 60 分）、そこから徒歩７分
●空港シャトル（山形市内）
「山形空港」乗車→「南高前・山大入口」下車（所要時間約 35 分）、そこから徒歩７分

山形大学小白川キャンパス事務部
〒 990-8560　山形市小白川町 1-4-12　023-628-4304
研究科 HP　URL　www-cssc.yamagata-u.ac.jp

表紙の３つの円は３つのコースを表現し、合わさることで「新しい価値を創造する」ことを表現します。